



季節を知ったら  
暮らしが楽しくなった

（第二五一号）

小満 しょうまん  
五月二十一日

## 高羽江社の御田植祭

伊勢平野では田植が済んで、早苗が日に日に育っています。今年は、神宮神田、猿田彦神社、そして伊勢市東豊浜町の高羽江社の御田植祭を拝見しました。神社で行われる御田植祭は、神田に早苗を植えること自体が儀式で、稲の豊作を祈ります。

宮川河口の左岸にある高羽江社の御田植祭は毎年五月三日。神社から四百m離れた齋田で行われます。齋田には大正七年（一九一八）の年号の碑が立ち、『伊勢市史』ではおそらく大正時代にここで御田植祭が始まったのではないかと記しています。

祭典には、神社関係者に混じり、地元の女子中学生六人の早乙女の姿も。丈の短い青い着物に赤い帯を締め、腰巻を着けています。足には脚絆、頭には菅笠をかぶります。美しいいで立ちの少女たちは初々しく、まさに晴れの日にふさわしく思いました。

古くから、田植初めは女性が担ってきました。女性のもつ生殖力が稲に霊的な影響を与えると考えられてきたからです。地域によっては田植えの日に美しく着飾ることから早乙女を花娘と呼んだり、田植着を新調することを五月支度といったり、田植えをする女性たちが着飾ったことが伺えます。

現代の早乙女たちは、草履から地下足袋に履き替えて、水田に入ったものの、泥に足を取られ、慣れない様子。それでも手に持った早苗を植え終わると、うれしそうな表情で田から上がってきました。

じつはこの高羽江社は、内宮の神官を代々務めた荒木田氏がこの地域を開拓したため、その祖先につながる神をご祭神とします。荒木田氏ゆかりの地の御田植祭なのです。

文 千種清美

